

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 学 術 )	氏名	SURENJAV OYUNZUL
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 日本語とモンゴル語における身体語彙慣用句の対照研究 — 「目」を含む慣用句を中心に—			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	佐藤 暢治 印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	マハラジャン, ケシャブ・ラル
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	深見 兼孝
審査委員	広島大学	名誉教授	浮田 三郎
審査委員	大阪外国語大学	名誉教授	橋本 勝
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、日本語とモンゴル語の「目」を含む慣用句を対照させ、認知言語学の観点から慣用句の統語的な構成要素が慣用句の意味の成立に果たす役割、さらには慣用句の意味の成立に文化的背景がどのように関わっているのかを明らかにしたものである。「目」を研究対象とするのは、身体語彙慣用句のなかで「目」を含むものが通言語的にもっとも多いことによる。</p> <p>本論文は6章で構成される。第1章は序論であり、研究の目的、背景、意義、研究方法、構成について述べている。第2章では、日本語とモンゴル語の慣用句の共通点として、二語以上からなり、定型的な形式で構成され、構成要素全体で一つの意味を成す統語的に分解不可能な比喩的な意味を持つものが多く、教訓的な意味を持たない点において諺とは区別されるものであるといったことを明らかにしている。第3章では、日本語とモンゴル語における「目」を含む慣用句の語彙構成を対照させ、両言語とも動詞慣用句が85%以上を占めるという共通点を明らかにしている。第4章では、日本語とモンゴル語の「目」を含む慣用句の統語的な構成を対照させ、モンゴル語に特徴的な「所有接合語 ni」「対格+再帰所有接辞-ee」等の意味機能を論じる。「所有接合語 ni」の意味機能は慣用句の程度を高める、感情・心情の意味成立に関与する、さらには他者に対するマイナスの意味を表すことにあり、「再帰所有接辞-ee」の意味機能は話し手への感情評価や態度を表すことにあることを明らかにし、慣用句の意味には個々の語のみならず、統語的な要素も関与することを論じている。第5章では、日本語とモンゴル語における「目」を含む慣用句のなかから感情を表すものを分析し、両言語には「目の形の変化」「目の動き」「目の様子の変化」等に基づく表現に共通点が見いだされ、そこに表出される感情についても「驚き」「喜び」「怒り」「嫌悪」「欲望」等共通していることを明らかにしている。さらに、個々の語の意味は類似しているが、慣用句としての意味解釈が異なる代表的なものを取りあげ、その意味の相違は個々の文化的な背景、モンゴル語であれば牧畜文化にあることを論じている。第6章では、結論と今後の課題を論じている。</p> <p>本研究は、日本語とモンゴル語の慣用句を本格的に対照させた初の論文であること、モンゴル語の慣用句研究に認知言語学的手法を持ち込んだ初の論文であること、さらには今後の慣用句研究の</p>			

発展に大きく貢献できる可能性があるものとして高く評価され、その研究内容も博士の学位取得水準を満たしていると判断された。なお、本論文の主要な内容は学術論文2編（査読付きで単著）として公表済みである。

以上、審査の結果、本論文は、学位請求論文として独創性と確実性を兼ね備えており、博士（学術）の学位を授与されるに値する内容の論文として認められる。